

全国大会で活躍する部をいく
つも抱え、生徒の9割がクラブに参加する部活

動の盛んな高校である。そして、進学面では一年生のほぼ全員が国公立大を志望するという、まさに文武両道の学校といえる。

「生徒には進学面でも成果をあげ、部活動で
も一流をめざしてほしいと思
っています。確かにしんどい
かもしれませんが、そうでな

いと郡山高校に来た意味がありませんから。我々教師も、3年生までは放課後に講習を入れないなど、部活動の時間を見保証するようにしています」

進路指導部長の岡本秀光先生は「部活動に熱心に取り組んでいる影響でしようか、生徒は明るいし、成績も部活動を終えた高3の秋以降にグングン伸びてきます」と語る。

「低学年からの進路指導を」

もっと積極的に進路のことを考えられるようなシステムがあれば、と感じ始めたのです。これまで本校の進路指導は、一部活動が終わつた3年生を中心にしていました。しかし、それではど

一クラスでの発表は、生徒にとって自分とは違うほかの人の考えを聞く貴重な機会です。他者とのかかわりの中でこれまでの自分の考えを検証し、友人の意見によって視野を広げることができるはずです」

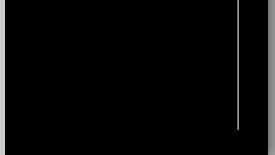
「そもそも進路は自分自身で選ぶものなのだから、少々迷つてもかまわないと思います。いろんなものに目を向け、1人ひとりがいろんなことを考えながら決めていけばいいのです。そのためにも発表会で友人の意見に耳を傾けてもらいたいと思います。実際、同級生の体験を聞いたことで、変わっていく生徒も少なくあります」と岡本先生は考へる。



岡本秀光
奈良県立郡山高校

客観データで再検討

郡山高校では、文理選択に関する客観データを得るため、1年生に対して7月に「キャリア検査結果は、担任が面談資料として活用する。「面談の際、担任は検査結果を踏まえて生徒に『文理を決めることは将来を決めることにもつながるんだよ』と語りかけているようです。中には、自分の志望と違う結果が出る生徒もいる



他者との かかわりの中 で 生徒の進路観を 早期に養成する

きながら、これから3年間進路について考えて
いこう』と呼びかけています」
進路学習ノートを活用した大きな取り組みに、

自由に利用できる「スピ-」感覚でとらえて
いるようですね（笑）。生徒に対して強い求心力
を持つていて、本校ではなあのこと、クラブ顧問
も担任も、同じように生徒の将来を保証する責
任があることを痛感します」

面談に力を入れる

のはやはり個別面談と岡本先生は語る。事実、郡山高校では1年生の2学期後半から、文理決定を受けて今後どのような学習を行うべきか担任が個別に指導し、2年生になってからも家庭学習の習慣が根づくよう面談を重ねていく。

「また、本校では全校生徒を対象にした独自の進路・学習アンケートを毎年実施して

重の部分が同様では各々のことに反応する。
作成、クラブ顧問も生徒の成績を把握し、担任
と連携しながら指導を行つてはいた。つまり、全
教師が共同して生徒の指導にあたる体制がより
強化されたといえるだろつ。

「放課後は部活動に参加するので、うちの生
徒は皆教師と交流する時間がかなり長いんです。
そのせいか、生徒は教師のところによく足を運
びますよ。また、中には休日に学校に勉強しに
やってくる生徒もいて、彼らは学校をいつでも

職業レポートを課題に

「満足いく結果が出せるの」
そう感じていました

郡山高校では、2年次での文理二コース分けに向けて、1年次の9月に文理選択に関する説明

会を実施している。保護者も出席するこの説明会では、2年次からのカリキュラム説明以外に、文系理系どちらを選ぶかによつて学部・

奈良県立郡山高校

他者との かわりの中で 生徒の進路観を 早期に養成する

どのよつな影響があるかを話す。この説明会に先立ち、文理選択に向けて生徒の進路観を養成するため、面談や課題レポートといった取り組みを実施している。

「本校では『キャリアサポー
ト』の進路学習ノートを、